

新年度予算に対する評価と見解

鎌倉同志会

鎌倉同志会は、平成二十一年度一般会計予算ほか諸議案について、すべてに賛成しました。

昨年秋の米国の金融危機に端を発した世界同時不況の中で、一般会計予算当初予算を前年比で実質三%プラスの積極的予算を編成したこと、総合計画の平成二十一年度計画事業をすべて盛り込んだ上で、さらに緊急経済対策と地球温暖化対策にも対応していることは、他の自治体の多くが予算を縮小している中で大いに評価できます。これは石渡市政の八年間で、人件費の抑制、国の補助金・交付金の活用、借入金返済の返済など、財政の健全化、弾力化に努めてきた結果、可能となったと言えます。

しかし、公立保育園と子どもの家の民営化には長い時間を要しています。

また、大船駅東口第二地区の再開発事業、深沢地域国鉄跡地周辺の整備、野村総合研究所跡地の利用などは計画づくりだけで長い時間を費やしています。市民の要望を十分に聞いて構想をつくるにしても、市長が二期八年の任期中に結果が出せないような現在の行政のテンポは、民間の感覚では考えられないものです。

計画づくりの早い段階から民間に委託して、その手法を取り入れた事業の進行管理をすべきです。

【地域社会の活性化】

地域コミュニティのモデル事業が、昨年度から大町と玉縄で行われています。今年度は地域の現状と課題の整理、行政の支援のあり方が検討されます。地域社会の重要性が再認識されたとすれば大きな前進です。

地域社会の崩壊は、福祉のみならず、教育、産業振興、防犯・防災、まちづくりなど、多方面に多大な影響を与えます。その根幹には、地域における住民の合意形成という、住民自治の問題があります。日本経済は厳しい状況にありますが、問題なのは日本人が「豊かさ」を実感できないことです。「豊かさ」には、お金とモノと情報だけでなく、幸せを感じる心が大切で、その心を共有することが、地域社会の再構築には不可欠です。

【民間活力の導入】

公共施設の管理運営と再開発事業などには、民間の活力と知恵を導入することで、サービスの向上と事業の進行

新年度予算に対する評価と見解

かまくらの民生

かまくら民主の会は、平成二十一年度一般会計予算ほか諸議案すべてに賛成しました。

平成二十一年度は、前期実施計画のローリングを踏まえ策定された中期実施計画のスタートの年でもあり、これからの五年間を見据えた重要な位置付けの予算編成であると考えます。

経済不況、雇用不安の中、昨年から実施している緊急経済対策を継続して取り組むなど市民生活の安定と地域経済の活性化を目指す姿勢を評価いたしました。

まちづくりの理念を市民・土地所有者・事業者と共有していくことで最近の土地開発にかかわる意見の相違を解決する必要があると考えます。新たに設置されるまちづくり政策部がしっかりと機能するよう期待したいと思います。

【職員の意識改革】

職員の意識改革と事務事業の評価を進めていくことが行政改革につながると思います。評価結果の検証を徹底して行い、さらなる活用や市民への公表、不祥事・ミスなどの防止を求めました。

【安全・安心のまちづくり】

常設の災害対策本部室の設置を評価いたしました。情報の一元化やその機能を発揮するための段階的整備を求めるとともに根本的な防災対策・対応も要望しました。

【環境への取り組み】

地球温暖化防止策として、太陽光発電の推進の助成など

新年度予算に対する評価と見解

公明党

公明党鎌倉市議会議員団は平成二十一年度一般会計予算ほか諸議案について賛成しました。

自治体の最大の役割は、市民生活を守り、市民が安心して地域で暮らし続けていくことができる環境を整備することにあると考えます。

厳しい環境を市民生活に真剣に向き合ったものか、また地域経済の活力を維持するという行政の責務を果たしているかを視点を置き審査いたしました。厳しい財政環境の中で一歩一歩着実に経営努力と行政改革の取り組みを評価するとともに、意見要望をいたしました。

【緊急経済対策】

市民生活への負担軽減策として国民健康保険料の抑制、重度障害児者医療費無料化の継続、小児医療費の助成対象年齢の拡大等、中小企業融資に係る信用保証料補助の拡充、経営安定資金融資の拡大と利子補給の拡充、預託金の増額など市議団の緊急経済対策の要望にこたえるものと評価しました。

【都市基盤整備】

課題であった大船駅西口整備についてはペDESTリアンデッキ・公共広場等の整備、大船駅東口エレベーター設置に向けての準備や小・中学校校舎・体育館の耐震補強工事の推進等は市議団の提案にこたえているものと評価しました。

【福祉・教育】

子育て支援に関しては、産科診療所の運営支援、妊産婦

健診の拡充等評価するとともに、学校図書専門員の拡充、少人数授業の拡充、発達障害児童支援には専門家の配置を要望しました。

国保会計の負担軽減を図るため、後発医療品の使用促進を進めるべきと要望しました。

美しい緑豊かな景観には、緑保金は欠かせないものです。緑地確保には財源確保が必要不可欠です。そこで、緑保金の積み立てには市内外にわたる人々に保全のための寄付を募るなどした、積極的な行動をとるべきと要望、また多くの観光客が訪れる鎌倉として「ふるさと納税」や「観光協力金の創設」など財源確保を提案、要望しました。市政七十周年を記念して市民参加のもと、新鎌倉愛唱歌の作成を提案しました。

【終わりに】

以上、一部述べましたように、市民生活に欠かせない予算です。予算に反対表明し、政策上の過不足があるのであるなら、どこに弊害があるのか明らかにし、減額修正、増額修正等、議員権限を活用するなど積極的に市民生活をよりよくするための権限の活用を図らずに、予算否決することに対し、市民理解を得られないと主張いたしました。